

2022年9月1日09:30 (日本時間) / 00:30 (協定世界時) まで公開禁止

## auじぶん銀行 日本製造業PMI®

### 8月の製造業生産高および新規受注数はさらに減少

#### 主な動向

新規受注数の減少、2020年10月以来の最大ペース

受注残は1年半ぶりに減少

購買価格の上昇率、8か月間で最も緩やかに

2022年8月のデータ収集期間：2022年8月12～23日。

8月のデータによると、2022年第3四半期半ばに入り日本の製造業の業況に緩やかな改善がみられた。しかし、主要指数を構成する2つの要素である生産高と新規受注数は共に2か月連続で減少しており、表面上は見えない脆弱性が潜んでいる。減少率は7月から加速し、新規受注数はおよそ2年ぶりの急激な縮小を記録した。事業活動が短期的に圧迫されている兆候がみられる中、新規受注数減少も相まって受注残が1年半ぶりに減少した。しかし、需要が低迷したことでサプライチェーンに対する圧力が緩和され、サプライヤー納期長期化は2021年7月以来、購買価格上昇は昨年12月以来の低水準へと低下した。

8月の主要指数のauじぶん銀行日本製造業購買担当者指数™ (PMI) (製造業の全体的業況を表す指標)は、7月の52.1から51.5へと低下。2021年2月以来の最低値であり、業況は改善ペースが鈍化していることを示した。

主要指数が前月から減少したのは、新規受注数の急減が一因である。売上は2か月連続で減少し、2020年10月以来の最も急激だった。企業らは、新型コロナウイルスの感染拡大や、日本国内外の経済低迷により受注数が圧迫されたことが要因であるとコメントした。中国や韓国を中心とするアジア太平洋地域市場の需要が落ち込んだことで、輸出受注数も急速に減少し、その減少率は3か月間で最大だった。

生産高は8月、2か月連続で減少した。減少率は若干だったものの昨年9月以来最大だった。企業らは、新規受注数の減少の要因として需要の低迷や継続する原材料不足を挙げた。

製造業は、需要低迷が既存の受注残の消化につながったともコメントを寄せた。受注残が再び減少したこともこれを裏付けている。同時に、企業らの雇用者数が17か月連続で増加。任意退職者が増加する一方、雇用増加率は2021年4月以来最も低水準だった。

8月のデータは、原材料価格の高騰が日本の製造業の平均間接費を継続して圧迫したことを示し、購買価格は27か月連続で上昇した。しかし、インフレ率は7月から緩やかになり昨年12月以来の低水準へと低下した。

(次頁に続く)

auじぶん銀行 日本製造業PMI  
季節調整済み、>50 = 前月比で改善



出典：auじぶん銀行、S&Pグローバル

#### コメント

S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンス、Usamah Bhattiによる最新調査結果についてのコメント

「最新のPMIデータは、日本の製造業で業況が第3四半期半ばに悪化したことを指摘した。国内需要と世界経済の低迷が売上と生産高を圧迫し、主要PMIの55%を占める新規受注数と生産高は共に急激に減少をみせた。PMI指数が50.0以上を維持した主な要因は、サプライヤー納期の長期化と在庫の顕著な増加だった。

減少は今後短期的に続く可能性がある。顧客の消費意欲が低下する中、新規受注数の低迷が製造業の生産能力への圧力を和らげ、1年半ぶりに受注残が減少したためだ。

需要が緩やかになったことで、サプライチェーンへの圧力が緩和する機会になった。サプライヤー納期の悪化は全体的にまだ顕著とはいえ、2021年7月以来の低水準だった。このような状況であるにもかかわらず、製造業のインフレ圧力緩和につながった。要因として原油価格の下落と、購買価格上昇ペースが8か月間で最も緩やかであったことを指摘する企業が多かった。」

この傾向に伴い、販売価格のインフレ率も減速し、5か月間ぶりの低水準へと低下した。原油を中心とした原材料コストが下落し、顧客に転嫁されるコストも減少したとコメントを寄せる企業が多かった。

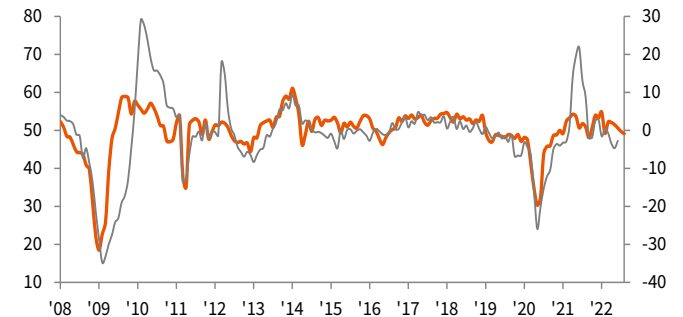
第3四半期半ば製造業は生産高縮小の中、業況低迷を受けて購買活動が11か月ぶりに減少。また、サプライヤー納期の長期化が過去1年間では最も緩やかになり、企業らは購買品の調達や納品問題が若干解消されたことを指摘した。生産需要と売上の低下を受けて、企業らは購買品や完成品在庫の積み増しに努めた。

直近の調査期間では、今後1年にわたる事業の見通しは7月から変化なしで、楽観的な景況感の全体的に堅調な水準を維持した。企業らは、世界的な価格及び供給問題が落ち着くことで、新製品発売や生産高増加が促進されるだろうと期待を示した。しかし、現在の需要レベルについては懸念が高まっている。

### PMI生産高指数

季節調整済み、>50 = 前月比で増加

製造業生産高  
前年比 (%)



出典: auじぶん銀行、S&Pグローバル、経産省

## お問い合わせはこちらどうぞ

auじぶん銀行

[Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp](mailto:Grp-S-I-Room@jibunbank.co.jp)

Usamah Bhatti

エコノミスト  
S&Pグローバル・マーケット・

インテリジェンス

電話: +44 1344 328 370

[usamah.bhatti@spglobal.com](mailto:usamah.bhatti@spglobal.com)

SungHa Park

コーポレートコミュニケーションズ

S&Pグローバル・インク

電話: +82 2 6001 3128

[sungha.park@spglobal.com](mailto:sungha.park@spglobal.com)

### 調査方法

auじぶん銀行日本製造業PMI®は、S&Pグローバルが製造業約400社の購買担当者へ毎月調査を行い、その回答をもとにまとめています。調査対象企業は、GDPへの貢献度に従い産業セクターおよび従業員数別に階層化されています。

調査回答は前月比での変化を示すもので、各月の後半に収集されます。これにもとづき、サブインデックスごとの拡散指数(ディフュージョン・インデックス)を算出します。各指数は「増加/上昇」と回答した企業の比率と、「同じ」と回答した企業の比率の半分の合計です。数値は0~100の間で変動し、50を超えれば前月比で全体として増加したことを、50を割り込めば全体として減少したことを意味します。そのうえで指数に季節調整が加えられます。

主要指数は購買担当者指数™(PMI)です。PMIは次の5つのサブインデックスの加重平均です: 新規受注(30%)、生産高(25%)、雇用(20%)、サプライヤー納期(15%)、購買品在庫(10%)。ただしサプライヤー納期指数は、結果として得られる数値が他の指数と比較可能になる計算方法で算出しています。

基本的調査データは発表後に修正されることはありません。ただし季節調整要因は必要に応じて修正されることがあり、その場合は季節調整済みデータに影響が及びます。

2022年8月のデータ収集期間: 2022年8月12~23日。

PMI調査方法の詳細は、[economics@ihsmarkit.com](https://economics@ihsmarkit.com)へお問い合わせください。

### 免責事項

ここに提供するデータの知的所有権はS&Pグローバル・インクに帰属し、もしくは使用が許諾されています。当データのいかなる部分についても複製、配布、伝達またはその他の行為を含む無許可の使用は、S&Pグローバル・インクから事前の承諾がない限り認められません。S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は、当レポートの内容またはそこに含まれる情報(「データ」)、データ上のいかなる間違い、不正確な記述、脱漏、遅延による、またはそれに関連した責任、義務、負担のいずれをも負うものではなく、またこれにもとづきとられたいかなる行為についても責任、義務、負担のいずれをも負いません。当データの使用によって生じるいかなる特殊、偶発的もしくは間接的損害についても、S&Pグローバル・インクとauじぶん銀行は一切責任を負いかねますので予めご了承下さい。Purchasing Managers' Index™およびPMI®はMarkit Economics Limitedの登録商標、もしくはMarkit Economics Limitedの使用が許諾されたものです。S&P GlobalはS&P Global Ltd.及び/又はその関連会社の登録商標です。

ここに提供するコンテンツは、S&Pグローバル・マーケット・インテリジェンスが公開しています。S&Pグローバル・インクの別部門であるS&Pグローバル・レーティングが公開するコンテンツではありません。関係当事者から書面による事前の許可がない限り、形態を問わず、評価を含むいかなる情報、データ、資料(「コンテンツ」)の複製を禁止しています。関係当事者、関連会社、サプライヤー(「コンテンツプロバイダー」)は、コンテンツの正確性、妥当性、完全性、適時性、可用性を保証しません。また、いかなる間違いや脱漏(疎漏など)、あるいは当該コンテンツの使用により生じた結果に対して責任を負いません。コンテンツのいかなる使用に関連するあらゆる損害、コスト、費用、弁護士費用、または損失(喪失利益や逸失利益、機会費用など)について、コンテンツプロバイダーは一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

### auじぶん銀行日本PMIのスポンサーは auじぶん銀行株式会社です

auじぶん銀行は2008年にKDDIと三菱UFJ銀行の共同出資により設立されたネット専門銀行です。「手のひらにある銀行」として、口座・金融商品・決済などに関して、スマホユーザー視点でサービス展開をしております。キャッシュカードなしで入出金が可能な「スマホATM」、為替相場の動きを予測する「AI外貨予測」、Amazon Alexaへの対応など、ユーザーエクスペリエンスを豊かにするために様々な取り組みを行っております。

### S&Pグローバルについて

S&Pグローバル・インク(NYSE: SPGI)は、必要不可欠なインテリジェンスを提供します。適切なデータ、専門知識、コネクテッドテクノロジーの提供により、政府機関、企業、個人が確信を持って意思決定を行うことを可能にします。新規投資案件の評価から、サプライチェーンにおけるESGやエネルギー・トランジションまで、世界中において新たな機会を発掘し、課題を解決し、成長を加速させます。

世界の資本市場、コモディティ市場、自動車市場において、信用格付け、ベンチマーク分析、ワークフローソリューションを提供し、グローバルのお客様の成長発展を支援します。詳細についてはウェブサイトをご覧ください: [www.spglobal.com](http://www.spglobal.com)

S&Pグローバルのプレスリリースを受け取りたくない場合は、[katherine.smith@spglobal.com](mailto:katherine.smith@spglobal.com)へお知らせください。弊社のプライバシーポリシーは、[ここをクリック](#)してください。

### PMI(購買担当者指数)

「購買担当者指数™(PMI®)」調査は現在、40を超える国々およびユーロ圏等主要地域で実施されています。世界で最も注目される景況調査として、各国中央銀行、金融市場、企業経営者の方々より、経済動向を知るための正確でユニークな最新月間指標としてご利用いただいております。詳しくは、[ihsmarkit.com/products/pmi.html](https://ihsmarkit.com/products/pmi.html)をご覧ください。